

予算の執行に努められた。
また、ふるさと納税への積極的な取り組みにより50億円を超える大幅な増額となり、財政調整基金残高も大幅に増加し、健全財政の堅持にもしっかりと取り組んできたことを確認した。

今後は扶助費や公債費の義務的経費、老朽化した施設の維持更新に係る経費の増額が見込まれ、総合計画に基づく施策の着実な進展を図るとともに、費用対効果や妥当性等の事業効果を厳密かつ定期的に検証し、健全な財政運営の堅持に努めていただくことを望むものである。

一般会計における会計年度任用職員制度について、議会において可決された予算の趣旨に基づき、適正に執行されたものであり、瑕疵があったとは認められず、認定すべきものである。

後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計についても、議会において可決された予算の趣旨に基づき、適正に執行されたものであり、瑕疵があったとは認められず、認定すべきものである。



子育て世代(20~40代)の転入者-転出者の差し引き数

年	差し引き	転入(燕市から)	転出(燕市へ)
2018年	-43	151	194
2019年	-53	158	211
2020年	-42	143	185
2021年	-62	170	232
2022年	0	185	185

主な医療費助成等比較表(三条市と燕市)

	三条市	燕市
不妊治療費助成	○	○
不育症治療費助成	○	○
妊産婦医療費助成	○	○
子ども医療費助成	○	○
インフルエンザ予防接種費用助成	○	○
産後ケア事業	○	○

質問一般
9月定例会
一般質問ダイジェスト!

西村邦明議員の質問

ヤングケアラーについて

手伝いの範囲を超えて、本来大人が担う家事や家族の世話を日常的にしている子どものことである。子どもたちに将来の夢や希望を諦めさせてしまうような社会であってはならない。学校や介護の関係者がヤングケアラーの存在に気付けると思うが、三条市の実態および取り組みについて伺う。

令和4年度の実態調査では、市内小中学校においてヤングケアラーの疑いのある生徒7人を把握し、学校による個別相談で生活状況を確認した。そのうち2人は、ネグレクトの懸念があるとして市が既に個別管理をしており、必要な支援を継続して行っている。

類焼空き家について

三条市では、火災等で全損した家屋等の所有者に対して救済措置があるのか。所有者が不明の類焼空き家への対応は。

燕 幸男議員の質問

認知症の施策について

認知症基本法に基づき、市町村による推進計画の策定が努力義務となった。それを受けて市としてどう迅速に具現化していくのか。

今後の国、県及び県内他市の動向を注視しながら検討していく。

記録的猛暑について

熱中症から市民の生命を守る取り組みはどのようなものか。

環境省が公表する暑さ指数の予測値が一定の基準を超える場合に、防災行政無線放送やホームページ、メール配信、LINEなどを活用して注意喚起している。特にリスクの高い高齢者に対して家庭訪問や集まる場所に行つて予防方法を呼び掛けている。さらに、冷房を効かせた公民館等を開放している。

市内に設置されている観光案内看板について

燕三条駅三条口側の看板は、平成10年に設置。たいぶん、まちやま等が完成した今、看板の書き換え等どうしていくのか。

屋等の所有者に対して救済措置があるのか。所有者が不明の類焼空き家への対応は。

まちやまの景観について

施設管理が不十分ではないか。

壊れている2カ所のブロックは修繕する。草刈りは既に終了しており、気持ちよく利用してもらえよう努める。

竹山嘉一議員の質問

アンテナショップとしてのキッチンカー導入について

首都圏のマルシェ等へ出店すれば、①三条農産品のPR②キッチン製作や調理器具も全て三条製で「ものづくりのまち」のPR③テーブルやチェアは三条のアウトドアメーカーでそろえて「アウトドアのまち」のPR④災害時の炊き出し車両と一石四鳥だ。導入すべきでは。

先進事例を研究し、導入の有効性を判断したい。



燕三条駅三条口側に設置されている観光案内看板

「くらしの品」ハイテクのまち三条市の看板は、新潟方面の文字がほとんど消えて読めない状況。今後どうするか。

市が設置した後、平成19年に改正された新潟県屋外広告物条例により改修等が容易でなかったため、同様の事情を抱える市町村と連携し、県に働き掛けていきたい。

白鳥賢議員の質問

市民の健康寿命を延ばす取り組みについて

スマートウエルネス三条推進事業、食生活改善事業等、今に至るまでどの程度に達しているか。

を判断したい。

興野公園地下の雨水調整池建設工事による住宅傾き被害について

この土地が軟弱地盤だという地元の声を聞いていたか。

また、工事を起因とする住宅被害の補償期間は。

地盤の悪さは住民より指摘されていた。

工事に起因する被害には、今後も責任を持って対応する。

子育て世代が燕市に流れる現状について

「子育て支援策が燕市に比較して弱い」との声をよく聞くが、比較すると両市はほぼ同じで、子育て世代の転出入の差指数も改善方向だ。子育て支援策のPRが弱いのでは。

また、自治体間競争の時代という認識はあるか。

自治体間競争の時代だ。競争力を有しないと人口や税が一方的に流失する。PR方法は、さらに効果的な方法がないか検討していく。

ただ、近隣と連携した地域全体の魅力向上が重要だ。

までの取り組みとその成果を伺う。

三条マルシェ等の事業によって、集いの場、共食の場の創出を行ってきた。これにより、意識せず外出して歩き、人と交流し、生活を豊かにする環境づくりがなされ、まちなかの1日当たりの平均歩行者数は平成26年度の958人から令和4年度には2778人と増加した。

また、食生活改善推進委員、市内スーパー、飲食店と協力し、市民の食生活改善に取り組み、脳血管疾患を原因とする死亡率も減少している。

今後も食と運動による市民の健康増進を進めてゆく。

民生委員制度運用の現状について

現状と成果、課題と対策を大綱的に伺う。

三条市の民生委員は、190人で、60代が42%、70代が45%を占める。月2回の研修で民生委員の役割、社会的孤立の防止、生活困窮者支援、虐待防止、介護福祉などを学んでいる。

大崎地区の民生委員の活動においては、単身生活保護世帯の方の病状悪化が防がれた例等があり、その重要性が高まっている。

課題は成り手不足と高齢化。今後は公募制や民生委員協力員制度の拡充を